

2023 年度に実施した主な事業

●子ども育成支援

経済的に困窮する家庭や母子家庭などで暮らす子どもたちが健全に育つように支援活動に取り組んでいる 16 団体に総額 600 万円を助成しました。助成先を公募して 6 年目を迎え、前年よりも 40 件も多い 119 件の申請がありました。例年、助成総額は 450～500 万円ですが、読売巨人軍から子ども育成支援事業の原資にと 100 万円の寄付があり、増額しました。



50 万円を助成した奈良県の NPO 法人「Genki Future Dreams 47」は、同県内 2 か所で「げんきみらい食堂」を運営し、カレーは大人 200 円、中学生以下の子どもには 100 円で提供しています。大人が善意で購入してくれる「みらいチケット」があれば子どもは無料で食べられます。

無料で学べる教室「げんきみらい塾」＝写真上＝も開設。助成金は食堂・塾での食事の費用や学習支援の教材費、スタッフの交通費に使われました。各団体の活動内容は読売新聞の地域版で詳しく紹介されました。

●読売巨人軍子ども育成支援など

読売巨人軍からの寄付に基づき、子ども育成支援活動をしている東京都内の 2 団体（東京善意銀行、都ひとり親家庭福祉協議会）に総額 150 万円を助成したほか、巨人軍が母の日の試合に招待した都内の親子ペア 500 組のチケット代 230 万円を負担しました。坂本勇人選手からは 21、22 両年度に続いて寄付があり、都内の児童養護施設の子どもたちを中心に 322 人（引率者含む）を巨人戦に招待しました。

●読売・郡司ひさる奨学基金

児童養護施設や里親家庭などから大学や専門学校へ進学する学生を支援する給付型奨学金（在学中、1 人年間 30 万円）。25 人に計 750 万円を支給しました。26 回目となった 24 年度入学者の募集には 66 件の応募がありました。

●被災者支援・災害ボランティア

東日本大震災の被災地である岩手県陸前高田市内の国道にスイセンを植える活動をしている NPO 法人「Green Fields」（盛岡市）に球根の購入費として 30 万円を助成しました。また、2023 年 7 月の大雨で大きな被害が出た福岡県内の被災者支援のため、「災害支援ふくおか広域ネットワーク（F ネット）」（福岡市）に加盟団体の活動費として 30 万円を助成しました。

災害ボランティア団体の初動対応に必要な資金を助成することを目的に設けた「災害ボランティア登録団体」のうち、7 月の大雨や能登半島地震などの支援に出動した 6 団体に総額 239 万円を助成しました。7 月の大雨に



出動した 2 団体は助成時点ですでに年上限の 50 万円を支給済でしたが、団体側から強い要望があり、前倒しで助成しました。能登半島地震の被災地に出動した災害捜索救助犬協会（埼玉県久喜市）は石川県珠洲市で 3 日間、救助犬を使って倒壊し家屋で行方不明者の捜索＝写真左＝をしましたが、大量の土砂や積雪で匂い

を追うのが難しく、発見には至りませんでした。

●救援募金

能登半島地震の被災者支援のため、読売新聞社と共に救援募金を実施しました。読売新聞紙上などで寄付を呼びかけたところ、6962 件が寄せられ、総額 2 億 4,333 万円余に上りました。読売新聞グループ本社からも 3,000 万円の寄付があり、全額を義援金として石川など被災県に送りました。内訳は石川県 2 億 333 万円余、富山県 2,000 万円。新潟県 2,000 万円。石川県には事業団が積み立てている「大規模災害支援基金」から支援金として 1,000 万円も送りました。同県は義援金に算入したそうです。

●福祉作業所助成（生き生きチャレンジ）

福祉作業所で働く障害者の方々の自立を支援する「生き生きチャレンジ助成事業」は、13 作業所に総額 500 万円を支給しました。37 作業所から申請がありました。売り上げが回復でき、雇用維持や工賃・賃金アップにつながる設備投資に使ってもらいました。

●在宅重症心身障害児者への支援

在宅の重症心身障害児者やその家族を支援するため、「全国重症心身障害

児(者)を守る会」と連携する親の会 9 支部（北海道、青森、福島、群馬、長野、高知、山口、福岡、熊本）に総額 100 万円を助成しました。15 万円を



助成した北海道支部では、8月、北見市内で重症心身障害児と家族の生活を負ったドキュメンタリー映画「普通に死ぬ〜いのちの自立〜」=写真左=の上映会を開催し、重症児とその家族、職員ら67人が鑑賞しました。また、守る会がインターネットで行う療育

相談にも70万円を助成しました。

●読売福祉文化賞

今の時代にふさわしい福祉活動を実践している個人や団体を読売新聞社とともに表彰しています。21回目を迎え、一般部門3団体、高齢者福祉部門3団体の計6団体にトロフィーと活動支援金各100万円を贈りました。読売新聞東京本社で受賞者を招いて贈呈式・記念撮影=写真=を行った後、4年ぶりに懇親会も行いました。

●がん患者助成

公募4回目となった「がん患者在宅療養支援事業」は5団体に総額180万円を助成しました。進行がんなどのために在宅で療養する患者やその家族への支援活動をしているボランティア団体が対象で、応募があった7団体の中から東京都内の2団体のほか、北海道、福島、大分県各1団体が選ばれました。

●読売アイバンク

移植でしか視力回復ができない患者のために角膜をあっせんする事業。眼球提供者3人から6眼が提供され、6眼が移植されました。2024年3月末の献眼登録者数は2万4273人、前年度から98人増えました。